

神奈川県立あおば支援学校のコミュニティ・スクールについて

コミュニティ・スクールの在り方等に関する検討会議 (第5回)事例紹介

令和3年9月10日



Aoba School for Special Needs
Education

神奈川県立あおば支援学校長 横澤 孝泰

神奈川県立学校のコミュニティ・スクール

神奈川県教育委員会では、全ての県立学校に
コミュニティ・スクールを導入することとした

県立高等学校・中等教育学校

⇒平成31（2019）年度から全校で導入

県立特別支援学校

⇒令和2（2020）年度から全校で導入

神奈川県立特別支援学校のコミュニティ・スクール

県立特別支援学校の全校（29校）導入に向け、平成29（2017）年度に4校を試行校に指定
校長会議を中心に研究会を設置して、検証を進める

H29(2017)年度	試行校4校の指定、試行校導入準備
H30(2018)年度	4校での試行開始、CSの方向性検討 全校での導入準備（校内組織立上げ）
H31(2019)年度	試行の検証、スタートアップガイド作成、 全校での導入準備
R2(2020)年度	全校で導入、学校運営協議会設置

神奈川県立特別支援学校
コミュニティ・スクール
スタートアップガイド

学校運営協議会設置に向けて



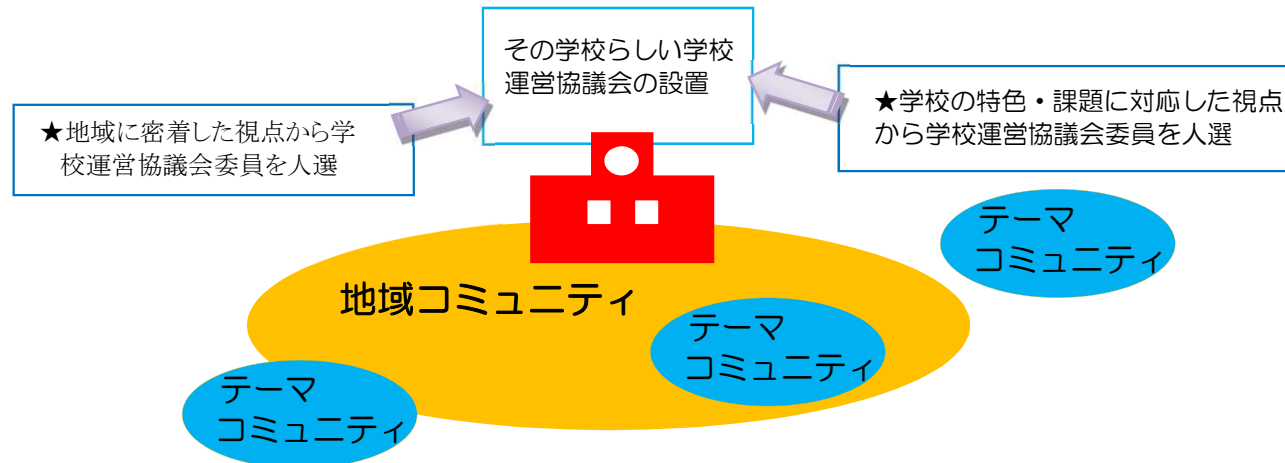
令和元年7月

神奈川県立学校長会議
特別支援学校部会学校経営研究会

神奈川県立特別支援学校のコミュニティ・スクール スタートアップガイド（抜粋）

特別支援学校における「地域」とは

- 地域コミュニティ・・・地域密着型の協議会を設置
- テーマコミュニティ・・・学校の特色・課題に応じた協議会を設置

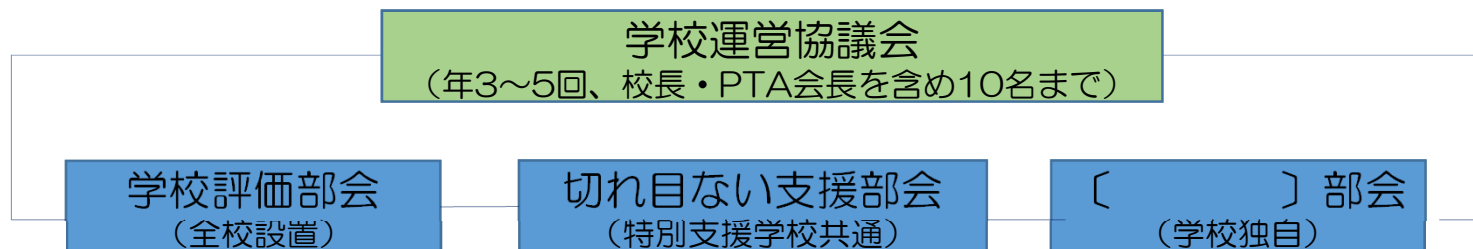


地域コミュニティかテーマコミュニティかの二者択一ではなく、学校の特性に合わせて両者をバランスよく考えていくことで、その学校らしいコミュニティが創られています。

神奈川県立特別支援学校のコミュニティ・スクール スタートアップガイド（抜粋）

【基本コンセプト】

特別支援学校の学校運営協議会では、地域との協働による学校運営の推進とともに、「ともに生きる社会」（共生社会）の実現をめざす



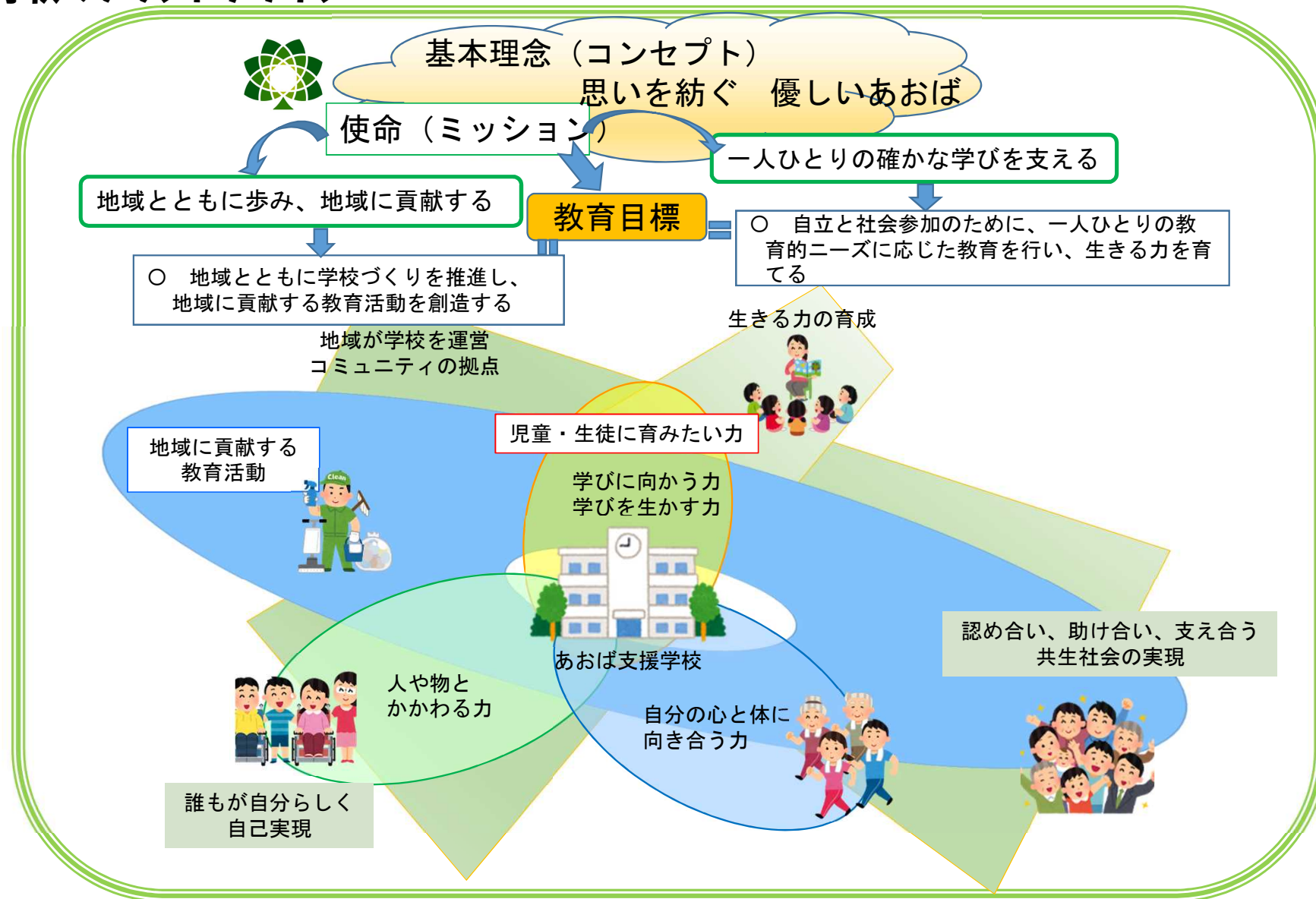
【切れ目ない支援部会を設置】

子どもたちの就学前の療育機関や卒業後の企業や福祉施設等とのつながり（ライフステージに沿った「タテ」のつながり）、地域の幼稚園や学校との交流及び共同学習やセンター的機能による巡回相談等によるつながり（「ヨコ」のつながり）等について協議する「切れ目ない支援」部会を特別支援学校に共通した部会として設置する。

あおば支援学校は、
小学部、中学部、高等部の3つの学部を設置し、
それぞれに、肢体不自由教育部門と知的障害教
育部門がある特別支援学校です



あおば支援学校のグランドデザイン



校長としての新校開設方針

8

- ① 誰にでも分かりやすく、10年経っても、20年、30年、100年経っても、開校からの理念を継承できるような、オーソドックスな特別支援学校
- ② 地域に愛され、地域に育てていただける特別支援学校
- ③ 誰もが楽しめる学校～親しみやすく、ちょっと面白そうだと誰からも感じてもらえる特別支援学校



本校がこの地域のコミュニティの拠点となる意義

小学校や中学校は、その地域のほとんどの子どもがその学校に通う、その親は保護者として学校に関わる、そして、保護者自らが卒業生であったりする、など…地域に居住すると、自然とその学校に密着し、愛着が湧く

⇒特別支援学校は？



本校がこの地域のコミュニティの拠点となる意義

教職員はいずれ入れ替わる。校長もしかり
地域は人が変わっても、受け継がれていく
この学校が地域のコミュニティの場として継続すること
この学校をどのようにしていくのかを、地域の方々とともに
考え知恵を出し合うことが重要～自分の学校になっていく
特別支援学校は、地域との密着性が弱いし、薄い
地域の方からは、親近感がない、愛着形成ができてにくい
ごく限られた人との関係が多い
結果、特定の人しか集まらない、経済的な支援も弱い

本校がこの地域のコミュニティの拠点となる意義

誰でも自然と集まれる場として
ちょっと楽しい小ネタの提供～学び
「ひと・もの・じかん」を共有することで
交流が生じ、お互いの活動が生まれ、
協働へとつながる
⇒ 地域のコミュニティづくりに貢献



本校がこの地域のコミュニティの拠点となる意義

地域の方々に、この学校に慣れ親しんでもらう
⇒愛着が湧く

ともに学び、ともに楽しみ、ともに喜ぶ
学校のために、何かをしようと思ってくれる
様々な資源が集積される



地域に貢献する教育活動の意義

- 児童・生徒が地域で豊かに暮らし、働くことにつながる指導・支援
＝学校教育目標のひとつ

あおば支援学校のコミュニティ・スクールについて

＜基本コンセプト＞

あおば支援学校の学校運営協議会では、
委員みなさまと「思いを紡ぎ」、
地域との協働による学校運営の推進を図り、
「ともに生きる社会」の実現を目指します。

委員さんの
個人ロッカー

あおば支援学校は、みなさんの学校です！



Aoba School for Special Needs
Education



学校運営協議会の委員

地域密着、学校の特色・課題に対応した視点の両面から人選した

会長；NPO法人代表理事

副会長；地域連合自治会長2名

委員；青葉区役所（区政推進課長）

近隣大学（桐蔭横浜大学教授）

近隣小・中学校長代表（横浜市立みたけ台中学校長）

医療関係者（医療法人理事長・医師）

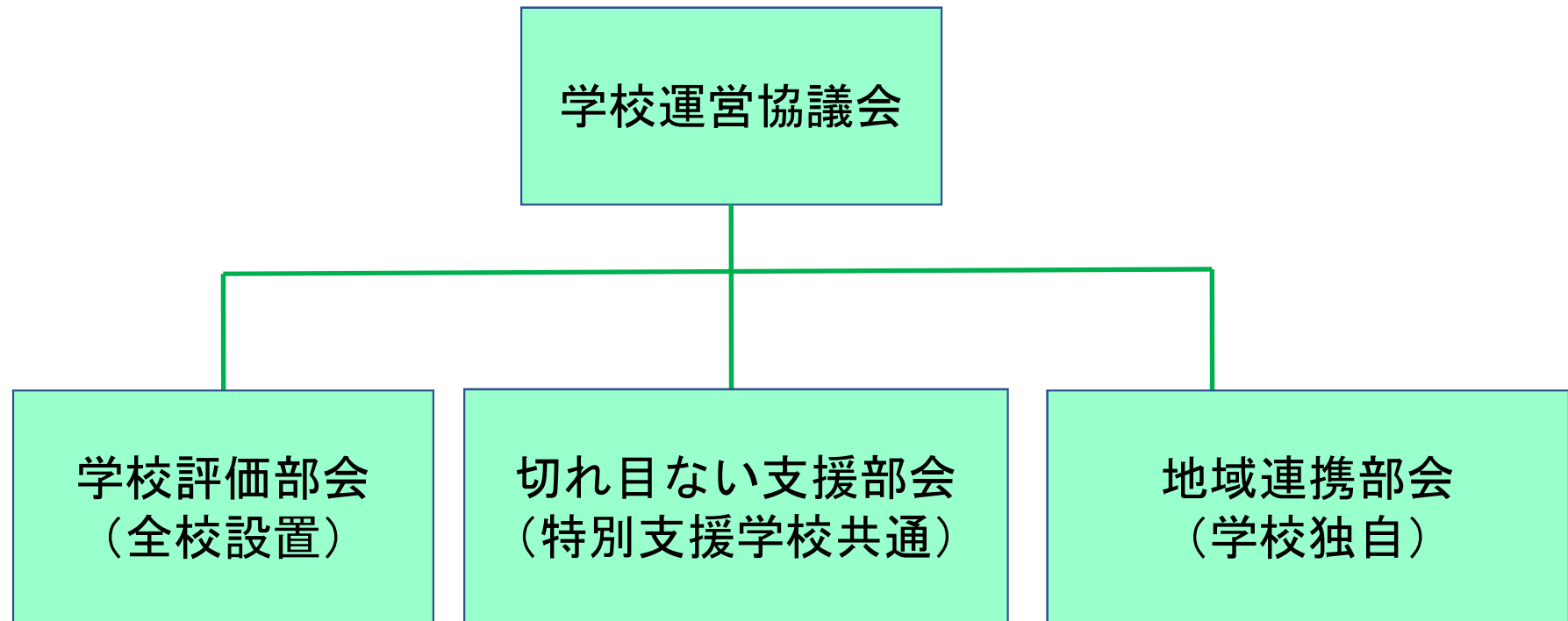
社会福祉法人代表（地域活動ホーム所長）

保護者代表（あおばの会）

校長

計10名

あおば支援学校の学校運営協議会組織



切れ目ない支援部会

《課題》

- この地域での卒業後の就労先が、少ない。
- 特に、肢体不自由教育部門の卒業生の受け入れ先がない。

《解決の方向性》

- 医療関係者であり、医療法人理事長である委員から、設置の方向性を探る提案



地域連携部会

《課題》

- 地域学校協働活動の方向性
- 学校開放事業の課題
- 本校を福祉避難所として活用する

《解決の方向性》

- 特別支援学校が、地域と密着していくための方法
- 学校開放事業の運営を学校外部の組織で行う
- 青葉区役所と連携して、設置を進める



地域学校協働本部

ボランティア活動のネットワークを形成する
⇒学校と地域を結びつける

地域などから集められた資金を一つにまとめ、
基金にして収益を地域に還元する仕組

～ファンドのようなものを模索中！

このような業務は、教員の本来業務ではない
～地域学校協働活動推進員の配置による効果



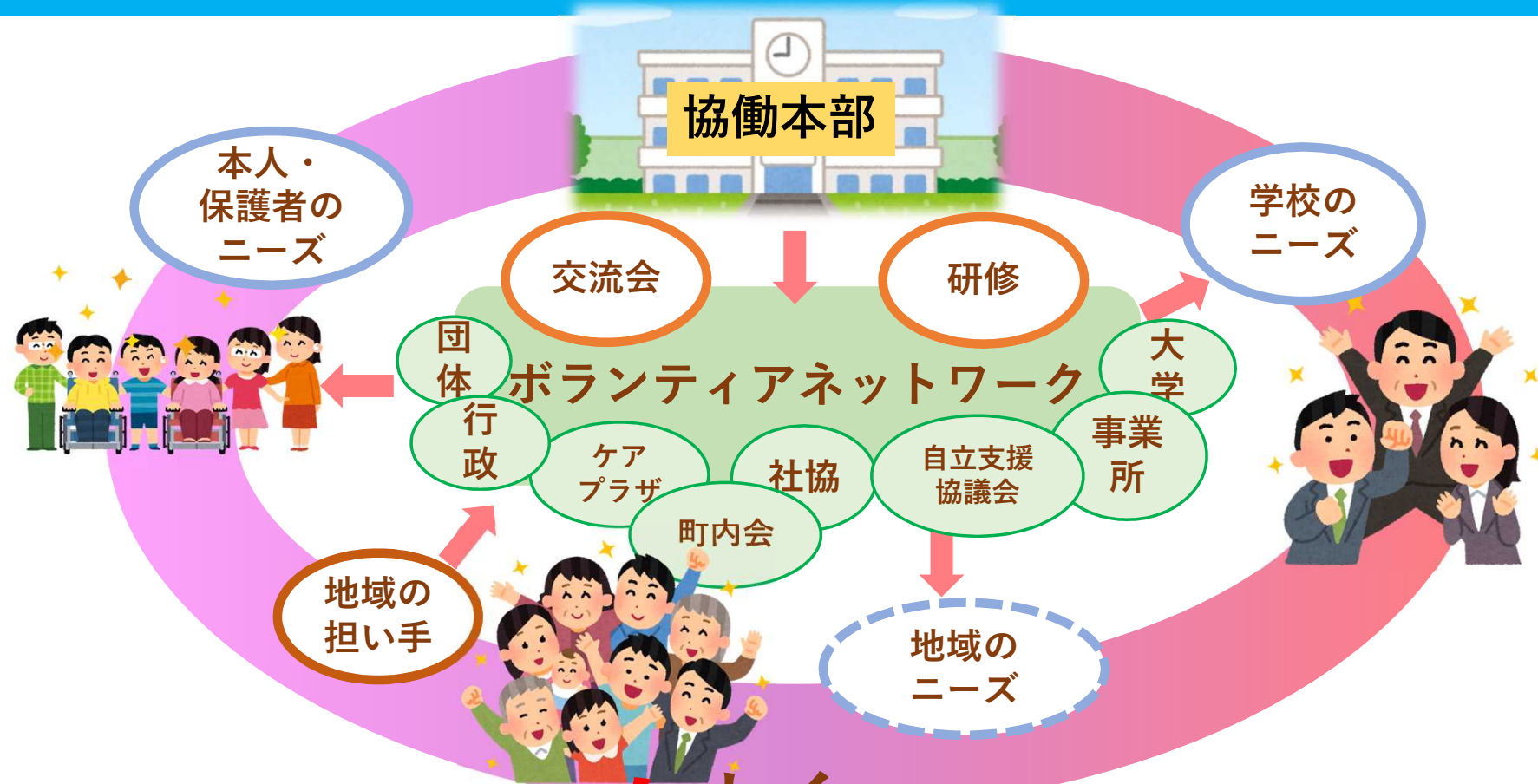
地域との協働活動

保護者にとって地域と結びついていくという意味
児童・生徒は、居住している地域との結びつきを形成していく必要があるが、まずは、地域とのつながり方を、児童・生徒や保護者も学んでいく場が必要なのでは

保護者は、在学中に地域と結びつくメリット、つながっていく方法を学ぶことで、居住地の地域とのネットワークに入りやすくなるのではないか



子ども・保護者、先生、地域 三方良し



先生・保護者 **楽しく** 地域連携・地域貢献

(参考) 義務教育の学校区と高等部の指定地域

教育部門	義務教育の 学校区	高等部 指定地域
肢体不自由教育部門	横浜市青葉区全域	全県一区
知的障害教育部門	横浜市青葉区の一部 // 緑区 の一部 // 都筑区の一部	横浜市青葉区 // 緑区 // 都筑区 // 港北区 川崎市麻生区 // 宮前区

